絶対国防圏の崩壊

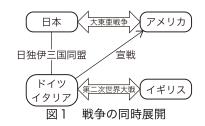
ミッドウェー海戦における主力空母4隻の喪失は、海洋の主導権を大きく動揺させ、以後の戦局に甚大な影響をもたらした。1943 年9月、御前会議は絶対国防圏を設定して戦略守勢に転換するとともに、戦時体制を整備して軍事生産の拡大に努めた。しかし、その一角のサイパン島も陥落し、戦争の帰趨はほぼ決定した。

○戦局の転回

●連合国と枢軸国

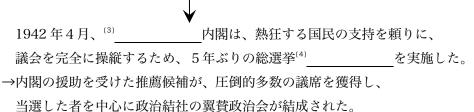
1941年12月、日本が対米宣戦した後、日独伊三国同盟に従い、ドイツ・イタリアもアメリカに宣戦した。

- →アメリカは、大東亜戦争と第二次世界大戦を同時展開することになり、 アメリカ・イギリス・ソ連などは⁽¹⁾_____と呼ばれた。
- ⇒対する日本・ドイツ・イタリアなどは⁽²⁾_____と呼ばれた。



●快進撃の停止

- < 東条英機内閣 | 1941 年 10 月~1944 年 7月> 連合国は、ドイツ打倒を第一とし、欧州への軍事力投入を優先した。
- →このこともあり、日本軍は東南アジアから南太平洋の米領・英領・蘭領を、 開戦後から半年ほどで軍政下においた。
- ⇒日本国民の多くは、序盤の連戦連勝に熱狂した。
- ◇米領…フィリピン/英領…マレー半島・シンガポール/蘭領…インドネシア



- ⇒結果、議会は内閣の提案に承認を与えるだけの存在となった。
 - ¥ 1942 年 6 月、⁽⁵⁾_____ …中部太平洋でおこなわれた、日・米の海軍機動部隊同士の戦い
 - …日本連合艦隊の主力空母・艦載機・搭乗員が失われたことで、 日本は制海・制空権を喪失し、以降海上・航空戦力で劣勢



図2 ドイツ上空を飛ぶ B-17



図3 翼賛選挙のポスター





図4 炎上する空母「飛龍」「加賀」

●国防圏の決定と崩壊

<東条英機内閣 | 1941 年 10 月~1944 年 7 月>

ミッドウェー海戦以降、劣勢に立った日本は、戦略の再検討を迫られた。

⇒1943 年 9 月 30 日、天皇臨席の下の最高会議である御前会議が開かれ、 死守すべき防衛圏域「⁽⁶⁾」を決めた。

Y	
1944 年 7 月、マリアナ諸島の ⁽⁷⁾ _	陥落で(6)の一角が崩れ、
その責任を負う形で ⁽⁸⁾	内閣は総辞職した。



図5 サイパン島に上陸する米兵

●占領地域での衝突

[南方]

当初、日本軍による東南アジアの占領は、解放軍として住民の歓迎を受けた。

- →しかし、日本軍は戦争遂行のための資材・労働力調達に追われ、
 - 次第に住民の反感・抵抗を招いた。
- ⇒特に、多数の中国系住民(華僑)が住むシンガポール・マレーシアでは、 日本軍は華僑の反日ゲリラに悩まされ、掃討作戦に踏み切った。

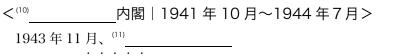
図6 シンガポール陥落

図7 シンガポールの華僑

「中国〕

中国共産党が抗日ゲリラ戦を展開したのに対し、日本軍も掃討作戦を実施し、 中国側は「焼きつくし・殺しつくし・奪いつくす作戦⁽⁹⁾ 」と呼んだ。

◇731 部隊…部隊長石井四郎のもとで細菌戦に備えた研究をおこなった部隊で、 捕虜を使った生体実験をしたとされるが証拠なし



- …満州国・汪兆銘政権・タイ・ビルマ・フィリピン・自由インドの代表を、 東京に集めて開いた会議
- …目的は、「大東亜共栄圏」の結束の誇示と占領地域の戦争協力の確保



図8 大東亜会議の代表者 (右から、ビルマ・満州国・汪兆銘政権・ 日本・タイ・フィリピン・自由インド)

